

※次週より、会堂での礼拝を再開します。当面の間は10時10分開始と11時10分開始の2回に分散して短縮プログラムで礼拝を行います。どちらも全く同じ内容です。長時間の密集を避けるためですので、ご理解をお願いします。

復活後第7主日 家庭礼拝

黙祷

招きの詞「話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。」(使徒言行録1:9)

主の祈り

讃美歌 337 「たたえよ、この日」

聖書 ヨハネ福音書 (Yohanes)

7:32~39 (新約179頁)

説教「自由の霊」

とりなしの祈り 阪口新牧師

献金 [感謝と献身のしるしとして]

讃美歌 404 「あまつましみず」

黙祷

5月24日「自由の霊」ヨハネ福音書7:32~39

イエス様は仮庵祭に出かけていきました。ユダヤ教の秋の収穫の恵みをお祝いするお祭りです。その祭りでは祭司によって、新しい年の恵みの雨を願って祭壇にエルサレム神殿の中に湧き出る泉から汲まれた湧水が注ぎかけられます！その儀式的クライマックスにイエスは叫ばれました。「**渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。**」イエス様は私たちに命の水をくださることを約束されるのです。井戸端で出会ったサマリア人の女性にはこんな約束もされました。「**4:14 わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。**」イエス様はユダヤ人たちと仲たがいでいたサマリア人にまでそう告げられたのですから、それは国籍や人種を超えてイエス様を信じるすべての者に与えられる恵みです。生きた水が流れ出るとは何か？今日の聖書ではこう説明されています。「**7:39 イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている“霊”について言われたのである。**」私たちに約束された渴くことのない生きた命の水、それは「聖霊」のことだったのです！

それは、私たちが今まさに待ち望んでいるものでもあります。先週の木曜日は

昇天日でした。イエス様は十字架に付けられ、復活された後、40日間、弟子たちと共に過ごされましたが、40日目に弟子たちの見ている前で、天に昇っていかれます。弟子たちはどんな気持ちだったのでしょうか。「せっかく復活されたのに、もう会うことが出来なくなってしまう」「寂しく悲しい」彼らの気持ちは想像するしかありません。けれども、イエス様は最後の最後まで私たちにこの聖霊を送る約束をしてくださいました。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。(使徒1:8)」そして、約束通り、五旬祭の日には、弟子たちのもとに赤い炎のような聖霊が送られてくるのです！それは時間や空間、言葉の壁、ありとあらゆるものに縛られない自由な存在です。あらゆる制約から自由となった「聖霊」という存在でイエスは私たちといつも一緒にいてくださるようになるのです！

少し話が変わりますが、『鬼滅の刃』という漫画をご存じでしょうか？大正時代、家族を全員を鬼に殺され、一人生き残った妹も鬼にされてしまった主人公の竈門炭次郎が妹を人間に戻すために、仲間と力を合わせて鬼と闘っていく・・・というストーリーです。昨年末にアニメ化されると人気爆発、人気絶頂のなか、先週月曜日発売の少年ジャンプで最終回を迎えました。魅力はいくつもあると思いますが、私は作品全体を流れる儚さと優しさだと思っています。敵は鬼なのですが、鬼はもともと人間です。それも生まれた境遇が酷かったり、悲しい過去があったり・・・だから「鬼」は色んな形の心の飢えを抱えています。ある鬼は家族に異様に執着したり、醜さ、貧しさに不必要にこだわったり、弱さに大きなコンプレックスを抱えていたり。そしてどの鬼も一様に満たされることを求めながら、満たされない空虚さに悩んでいます。それとは対照的に主人公の炭治郎には優しさが溢れていて、炭次郎に倒された鬼は炭次郎のやさしさに触れ、心が満たされて消えていくのです。子どもの漫画だと侮るなかれ！なかなか深い人間模様と心情が描かれていると思います。

この漫画が流行するからには、どこかに私たちが共感し、私たちの現実を反映している面がこの漫画にはあるように思います。そしてそれは「鬼」の在りようではないかと私は思っています。「鬼」はまるで私たち自身のようなのです。皆一様に心に空虚さを覚え、飢えと渇きを覚え、「愛」を求めているのです。

イエスも言われました。「**渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。**」この渇きとは何に対する渇きでしょうか？やはり「愛」ではないかと思うのです。イエスは「私があなたがたを愛したようにあなたがたも互いに愛

し合いなさい」と言われます。「愛」究極的にはこれがイエスが私たちに注いでくださったものです。「愛」それが私たちに励まし、勇気づけ、世界へと歩みださせるものです。「愛」それが神という存在であり、イエス、その人なのです。さて、今週の手紙にもこう言われています。「希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」来週から礼拝堂に集まっての礼拝の再開が決まりましたので、皆さんとの手紙のやりとりも一応今日で最後となります。先週は、I コリント 15 章でした。正解した方にも、分からなかった方にも、興味の無かった方にも神の祝福がいつも以上にありますように！

今、コロナ禍の世界的な混乱の中にあって、私たちの中にも不安や、溜息や、苦しみが蔓延しています。満たされない空虚さ、誰かを憎まずにはいられない悔しき、何かイライラしてしまったり、攻撃的になってしまったり、そんな「魂の渇き」を覚えている方がおられるかもしれません。イエスのもとにこそ、その渇きを癒す水があることを私たちは伝えていきたいと願います。また一方で、実はこのコロナ禍によって自覚していなかった「渇き」に気付かされたという声も多く耳にしました。常日頃から忙しさに忙殺されていた。この事態になって、忙しさから解放されたときに大切なものが見えるようになったと。恥ずかしながら私にも覚えがあります。そんな私たちのために、イエスは命の水を用意してくださるのです。

最後に、イエスが与えてくださる「生きた水」とは、渇きを癒し、のどを潤す「命の水」ともとれますし、常に流れていて濁りのない「流れのある水」ともとれます。私たちはこのコロナ禍によって改めて礼拝の意味を問われました。「礼拝に集められたことへの感謝」を口にしつつも、礼拝に出ることが当たり前になり、新鮮さや礼拝への期待を失っていた自分に気付かされました。私たちの礼拝生活はある意味で、溜まってよどんだ水のように、普段通りの決まりきった（言葉が悪いですが）マンネリに成り下がっていたのかもしれません。今回の事態によって、そこに新しい命が吹き込まれました！礼拝を「普通」に行えることがどれほどの恵みと愛に満ちていたかを気づかされました。ここには聖霊の息吹が注がれたと取ることもできるかもしれません！私たちは来週のペンテコステから会堂に集まっての礼拝を再開できることになりました。私たちは本当の意味で来週から問われることになるでしょう。私たちが共に守る礼拝が生きた水が流れるものとなりますように！生き生きとした喜びと感謝と命に満ち溢れたものとなりますように！共に祈って備えましょう。

とりなしの祈り

すべての命の源である神さま、あなたの御名をたたえます。
今日も私たちに御言葉を与えて下さったことを心から感謝します。私たちがそれぞれの家庭で献げます祈りと賛美をどうかお聞きください。
すべての造り主なる神さま、今、私たちの世界は大きな混乱の中にあります。混乱の中で最も傷つく弱い立場の人達をどうかあなたが御守りください。特に病の人、健康に不安のある人、職を失った人、医療の最前線で働く人々、その他この事態の中で深刻な状況にある人をどうかあなたが守ってください。また、この状況下でも行われる愛光保育園の上に、集まってくる子供たち一人一人、職員一人一人をあなたが助けてください。
復活と贖いのイエス様、あなたが私たちといつも共に居て愛を注いで下さることを心から感謝します。あなたの愛に押し出されて私たちも今週を歩むことができますように！特に私たちは～さんのことを思います（具体的に名前を挙げてください）。どうか～さんの心と身体が健康が守られますように。

自由に祈る

私たちといつも一緒に居て下さる聖霊、どうか私たちの信仰をあなたが熱くしてください。この事態の中で共に礼拝を献げることが出来無いすべての教会を顧みてください。信徒一人一人、教職一人一人のあなたへの思いを一層強くしてください。私たちに尽きることのない愛の流れを与えてください。また、来週から再開される私たちの礼拝を、流れる川のように生き生きとした喜びで満たしてください！

すべての愛の源である神さま、わたしたちを愛を行う者として押し出してください。今週も神さまに仕え、隣人に仕え、神を愛し、隣人を愛して歩めますように！多度津教会に連なる一人一人を祝ってください。次の日曜日には皆が喜びをもって集えますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン！